

西陣 モダンに衣替え

起業家オフィス・民泊施設

西陣織業界の業績が低迷する中、事務所の一部を若者を中心とした起業家向けの貸しオフィスに衣替えしたり、廃業した業者の空きビルを購入して「民泊」施設に改装したりする動きが出てきた。西陣の「地盤沈下」に歯止めをかけようと、地元関係者が再活性化に取り組んでいる。

(道念祐一)



●モダンな雰囲気が漂う「3889P LACE」の交流スペース(上京区)。●民泊施設に改装された西陣織業者の元事務所(北区で)

1938年創業の帯製造の老舗「都」(上京区)は、5階建て事務所のうち、展示場や倉庫だった4、5階の2フロア(計約660平方メートル)を、計15室の貸しオ

フィス「3889P LACE」(みやこプレイス、1室8(約38平方メートル)に改装。1日から1室当たり月約3万3000円、11万5000円)で貸し出しを始めた。

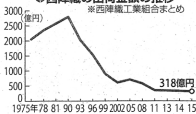
早速、子ども向けプログラミング教室、ネット上でマーケティングを手がける会社と、伝統的な西陣織のイメージとは異なる2業者が入居。5階には様々な業種の入居者が共用で使えるスペースもあり、この交流の場を運営する「ツナグム」(上京区)の取締役、

タナカユウヤさん(32)は「異業種と、西陣という伝統ある地域を結びつけた。都の倉田義明社長(69)

「都の倉田義明社長(69)

は「若者が入居してくれば、地域が再び活性化するのはないか」と期待する。「民泊」を運営しているのが、建設会社「新和建設」(北区)。十数年前に廃業した業者の3階建てビルを購入し、改装。今年1月、宿泊施設「Expo Hostel」(エキスポ・ホステル)をオープンした。計4室の部屋は障子に柄紙を使うなど、和の雰囲気を醸し出しており、増加する外国人旅行者の人気を集める。同社取締役で宿泊施設スタッフの小森勇佑さん(36)は「西陣で生まれ育った者として、西陣を製造業だけでなく、宿泊や飲食の町として知名度を上げたい」と話す。

●西陣織の出荷金額の推移 ※西陣織工業組合まとめ



1200年余りの歴史がある西陣織は、和服離れの影響で生産量や出荷額が減少。西陣織工業組合(上京区)によると、西陣の和装品の出荷額は90年の約2794億円をピークに、2015年は約318億円と約9分の1にまで落ち込んでいる。